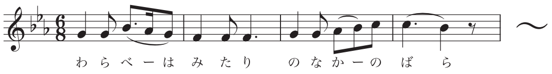
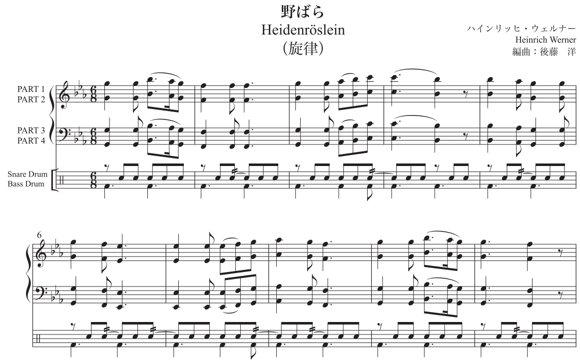
この曲集は、表現からハーモニーをつくるトレーニングです

楽譜は簡単だけど音楽は難しい。通すだけ、ピッチを合わせるだけ、になっていませんか？
このトレーニングを重ねることで、自ら音楽を感じ、一人一人が音楽表現をできるようになるでしょう。

1 フレーズを考える！(歌うトレーニング)

Barin Flexible Chorales for Band

このコラール集にはアーティキレーションをほとんど記載していません。歌詞を歌い、言葉のつながりや意味から、一人一人が旋律の抑揚を考えてみましょう。強弱やフレーズの切れ目が感じられるようになり、音符を追うだけでない旋律の歌いかた(音楽表現)が自然と身についていくはずです。

(野ばら)

Point! 初見の際に、全員で歌詞を歌いましょう!

---

2 全ての楽器で旋律を！(ユニゾントレーニング)

Barin Flexible Chorales for Band

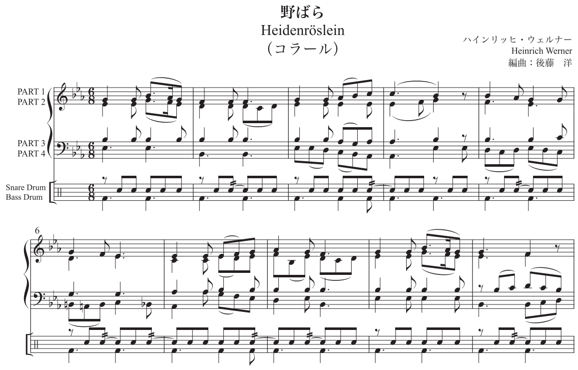
普段、旋律の役割が多い楽器も少ない楽器も、音楽の流れをつかむトレーニングが必要です。「歌うトレーニング」で身に着けた表現を楽器で演奏してみましょう。全員で同じ音楽(旋律)を理解し共有することで、音楽の受け渡しや和音の意味を考える機会となります。

Point! フレーズや音程に気をつけ、音を合わせるとともに、音楽の足並みもそろえましょう!
コラールトレーニングで音楽に統一感がなくなった時は、このユニゾントレーニングを再確認しましょう。

---

3 旋律を引き立たせるように！(コラールトレーニング)

Barin Flexible Chorales for Band

旋律がより素晴らしくなるためにバランスやハーモニーに気を付けて全員で演奏をしてみましょう!旋律を持つパートは音楽の流れが損なわれないように旋律の受け渡しをしましょう。また伴奏のパートは旋律の抑揚に注意し、ハーモニーの展開や強弱などをつけることで、旋律を引き立たせる演奏を意識しましょう。

Point! 毎回の基礎合奏で取り組みましょう!1つの曲を作り上げるためにフレーズや音量・バランスなど様々なことに気をつけてトレーニングを行いましょう

+α工夫してみよう！

四重奏からアンサンブルのトレーニング

フレキシブル編成のため、クラリネット4人、サクソフォーン4人など、パートでコラールのトレーニングができます！また、金管五重奏や木管八重奏などアンサンブルの基礎練習としても、木管·金管セクションの基礎練習としても使用できます。

コンデンススコアを活用

ピアノ譜(コンデンススコア)を利用し、ピアノやハーモニーディレクターで和音を確認!短調の和音や解決しない和音など、クラシックな和声進行に従わないコラールも取り入れているため、ハーモニーの構成をコンデンススコアから学べます。ハーモニーを理解し旋律との関係を考えるトレーニングとなります。